

(様式2)

令和 3 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100051		
法人名	社会福祉法人うぐいす福祉会		
事業所名	グループホームおおやちの家 (梅ユニット)		
所在地	新潟市江南区うぐいす2丁目7番5号		
自己評価作成日	令和4年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年2月10日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームおおやちの家は平成18年に設立、今年で15年目となりました。ご入居様の重度化は進んでおりますが、お一人おひとりもつ力を発揮できるよう手を出し過ぎず、共に笑い、共に楽しみ、時に助けあいながら「共に暮らす」という気持ちを大切にしています。また、ご家族に見守られながら安心して人生の最期がむかえられるよう看取り介護もさせていただいております。</p> <p>季節の行事として昨年は春のお花見、屋内屋外の夏祭り、秋は敬老会に健康祭、冬は舞踏会形式の忘年会、おおやち神社(手作り)でのご祈禱新年会、鬼が踊る節分大会など職員が企画するアイデアも年々創意工夫が施され、利用者様に楽しんでもらっています。</p> <p>地域との繋がりに関しては、天気の良い日は散歩に行き声をかけあう関係性も深まっており、ちょっとしたドライブにも気軽にでかけています。2か月に1度の運営推進会議では地域住民4名の方に出席してもらい、貴重なご意見を頂いています。語り部、フルート演奏、踊りなどの地域のボランティアの方も定期的に来てもらってましたが、現在はコロナの影響で控えざる負えない状況となっています。しかし、地域の方から「これ使いますか?」と五月人形やオムツ類、不要となった生地など寄附していただいたりと、気にかけてくださる方も増えてきていることを実感しております。また互助共助の関係が作れるようおおやちの家にはAEDを設置しております。</p> <p>職員は20代から70代まで幅広く、職員の趣味や特技を支援に活かしています。年度はじめには各自の目標シートを作成し年に2回の個人面談で振り返ります。認知症ケアの専門研修など年に1度は外部研修に参加し、研修報告会などを通じてその学びを共有し、様々な形で働きがいにつながるよう組織としても考えています。</p> <p>コロナ禍の状況が続くため、衛生面には充分気を付け、利用者様の生活を守っていきます。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設時から3つの経営理念と3つの介護理念を掲げ、各ユニットに掲示している。介護理念をもとに毎年職員が目標シートを作成し、前期、後期にわけて達成度の評価と個人面接を行ないながら、理念の実践に努めている。</p> <p>地域との関係性の構築を大切にしており、コロナ禍以前は、地域の行事、園児との交流、小学校の体験学習など積極的に交流が図られてきた。現在はそのほとんどを中断しているが、コロナ後を見据えて、個別の外出や少人数でのドライブ等可能な範囲で活動を継続している。</p> <p>運営推進会議は感染防止のため書面開催で行なうこともあったが、感染対策をしっかり行い可能な限り対面での企画を行い開催してきた。会議メンバーには地域住民が多く、顔の見える中で様々な意見をいただくことができた。</p> <p>また、事業所では家族とのつながりも大切にしている。現在は家族会も開催を見合わせているが、コロナ収束後には家族会の再開を企画している。利用者や家族との面会もガラス越しやパーティーション越し、オンラインなど多様な取り組みをしながら、本人と家族との関係が途切れないように工夫している。2ヶ月に1回広報紙を発行しており、職員が利用者の生活を綴った手書きの手紙を、広報紙と一緒に家族に送付している。</p> <p>看取りの支援にも取り組んでおり、今年度は2名の方を家族と一緒に見送った。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の年間目標を決める際も理念を元に決めている。また、目の届くところに理念を掲示し、内部研修でも理念の共有を図り支援に繋げる努力をしている。	開設時からの経営理念と介護理念を各ユニットに掲示しており、理事長は年1回、理念に基づいて職員に話をしている。また、職員は、介護理念を基に毎年目標シートを作成し、前期、後期に達成度の評価と個人面接を行っている。毎月のユニット会議やカンファレンスで支援に迷ったときなどは、介護理念に立ち返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為外部との交流は控えているが、散歩に行った際、地域の方に会った時は挨拶をしたり、地域の園児が散歩の際立ち寄ってくれたり、今年は出来る範囲での交流を行った。管理者の働きかけもあり、地域とは良好な関係が構築されていると思う。	コロナ禍でほとんどの行事が中断しているが、天気の良い日などには近隣を散歩し、地域の方からお花をいただいたり、挨拶を交わしたりしている。近くの保育園の園児が散歩に通ったときは声をかけており、園児が作った折り紙などを敬老のお祝いとしていただくなどした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会などで質問があれば、答える形で発信をしたり、地域の方から相談があれば対応はしているも、ホームから積極的に支援方法などを発信する機会は少なく、地域貢献とまではいっていないと感じている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は状況を丁寧に報告し、また、意見が言いやすい雰囲気を作りだし、頂いた意見を参考にし、サービス向上に努めている。また、参加していない職員も、会議の議事録を見て情報共有しサービス向上に努めている。	コロナ禍では感染防止のため書面開催とし、寄せられた意見や質問に対しては次回に報告するなどした。感染が落ち着いた2021年11月、2022年1月は事業所内のエントランスでの対面開催としたが、地域の代表者に進行をお願いし、顔を合わせての有意義な会議となった。会議では災害に関する助言などを得ており、会議録はファイルして職員に回覧している。	今後、利用者自身が会議に参加したり、利用者の意見や思いが会議の場でもより活用されるよう、利用者の会議参加方法についてさらなる検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に事務職員が行っており、課題が生じた時ではあるが、連絡を取り、課題解決に向け市町村と連携を図り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	提出書類等は直接市役所に持参し、担当者との見える関係づくりに努めている。新型コロナウイルス感染防止対策の必要物品(マスク等)の支援を得たり、オンライン研修等の案内をもらい参加するなど、日頃からやり取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行わない等身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、具体的な行為を全て理解出来るとまでは言えない。また、主体性を大切にする事で骨折等のリスクが上がり、安全と主体性のバランスは難しいと感じる事もある。	委員会を3ヶ月に1回開催し、ケアの振り返りや研修の企画等をしている。今年度は職員による紙パンツの装着失禁体験や、長時間の車いす乗車体験をして感想を述べ合うなどし、年間を通じてケアへの気づきにつなげるよう取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の活動や内外研修にて学ぶ機会を持ち虐待防止に努めているが、不適切ケアに関しては慣れや見過ごしている事も多いのではと感じる事もある。	職員の対応で疑問に思う場面等があった場合は、その都度主任や管理者が助言をしている。また、職員個々の気づきを促すためにチェックリストを活用して振り返りを行っている。年度末にはグループワークで事例検討を行う研修を予定している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会はなかったが、必要な方は制度の利用を行っている。成年後見制度を知らない職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が時間をかけ丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族からの要望や意見があった際は要望シートにて情報を共有し、運営や支援に反映させている。しかし、ホームに設置してあるご意見箱は実際利用しにくいと思う。	コロナ禍で家族の面会が難しくなり、意見や要望をいただく機会も少なくなっているが、ガラス越し、パーテーション越しの面会、オンライン面会などを取り入れ、その際には、意見を引き出せるよう配慮した言葉かけ、働きかけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案に対し、聞いてもらえる機会はあるが、経営上を理由として反映されることは少ない。どうしたらできるかを考えてほしいと思う時もある。	管理者と主任により年2回、職員の個別面談を行い、スタッフの意見は前向きに受け止め改善に繋げる機会としている。また、コロナ禍において買い物による感染リスク防止だけでなく利用者に関わる時間を増やしたいとの職員の提案により食材配達サービス利用を実施するなどした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めてくれていると感じている職員もいれば、もう少しプラスの査定をしてほしいと感じている職員もあり、個人差がある。有休使用に関しての不公平さやユニホームの新調など働きやすい環境の改善を求める声もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量は把握出来ていないと思うが、研修への参加を積極的に勧めて下さり、学ぶ機会を提供してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為交流する機会はなかったが、平時の時は外部研修に行かせて頂く事で同業者と交流する機会を提供してもらっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には特に丁寧に話を聞く事を大切に、関わる時間を増やし、関係作りに努めている。知り得た情報は記録に残し職員間で情報共有し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要か、見極められるよう、ご本人、ご家族と丁寧にコミュニケーションを取り、努力はしてるが、見極めれていない時もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のADLや生活歴、性格等を考慮すると、一緒に家事などを行う事は殆どなくなったが、一緒に過ごす時間は大切にし関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、通院など、やむをえない場合を除き、面会に制限を出している為、ご家族の希望を叶える事が出来ない事もあり、ご本人と家族の絆を大切にすることが出来ない場面が多かった。	コロナ禍により利用者と家族とが触れ合える機会は減っているが、ユニット新聞を2ヶ月ごとに郵送して利用者の様子を家族に伝えている。行事や生活風景での撮った写真については、毎年まとめてクリスマスプレゼントとして利用者に渡しており、家族にも好評である。また、パソコン利用ができる利用者の家族から、麻雀や将棋のアプリを入れてもらい利用者の脳トレに繋がっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から発信があった事に関しては(手紙や絵ハガキを送って下さる)支援しているも、コロナ禍の為、こちらから馴染みの場所や人の関係が途切れない為の積極的支援は行えていない。	コロナ禍で面会等は難しい中、絵手紙を送ってくる家族に返事を出す支援をしたり、自分の家を見たいという利用者の希望を受けてドライブがてら出掛けるなどしている。また、近隣の散歩時に顔見知りになり、挨拶する間柄になった方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性をみながら食席を検討したり、楽しい時間を共有してもらい、良い関係性が出来るよう努めたり、会話の仲介を行ったりしている。但し関りを好まない方もいる為、関係作りが職員の一方的なものにならないよう、しっかりとアセスメントすることが大切だと感じている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際は「何かあればいつでも、ご連絡下さい…」と話してはいるが、実際の所、相談は殆どない。しかし、退所後もホームに柿を届けて下さるご家族もおられ、感謝している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングの時や日々の会話の中での発言など、ご本人の思いや意向の把握や確認は行っているが、全て把握出来ているとまでは言えない。	日々の関わりの中で本人の思いの把握に努め、記録やカンファレンスで共有し、職員が統一した支援ができるようにしている。家族からの情報も大切に聞き取りをしている。食べたいものに関しては家族から協力していただくこともある。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ての把握は困難だが、ご本人、ご家族、関係機関から出来るだけ情報を得ている。また、入居後、会話等から把握に努め、引き出す楽しさもある。	入居前には管理者、主任が自宅を訪問し、生活の状況を確認している。本人、家族から聞き取りを行うほか、今まで利用していたサービス事業者や居宅介護支援専門員からも情報を得て、職員間で共有して支援に活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援やケース記録、カンファレンスノートなどから、一人一人の現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やユニット会議、日々のミニカンファレンスにて、意見交換や課題を話し合い、介護計画に反映している。	介護計画については、担当者会議やユニット会議やケースカンファレンスで検討し、検討内容はカンファレンスノートに記入して情報共有している。6ヶ月に1回、計画の見直しをしている。担当者会議は、コロナ禍で家族の参加ができないため、電話で丁寧に説明をして意見や要望を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、カンファレンスノート、報告書などで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多様化は出来ていないが、ニーズがあれば、可能な限り実現出来る方法を検討するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域資源との協働は殆ど出来ていない。また、個々の地域資源の把握はあまり出来ておらず、「地域資源とは？」「言葉が難しく分かりづらい…」等と言う声もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医の継続、提携医の往診、必要時の他科受診など、適切な医療が受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医を継続する方もいるが、コロナ禍となってからは往診してくれる協力医への変更も多くなっている。協力医は毎週往診しており、看護師も週3回勤務して利用者の健康管理に努めている。夜間の対応も可能となっている。協力医は内科であり、内科以外の他科受診は原則家族に対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時、日々の気づきや情報は看護師に報告、相談出来ている。また、看護師は週3日勤務だが、必要時は電話での対応にて指示がもらえる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、主任を中心に情報提供や相談に努めている。また、入院が長引くと認知症の進行も考えられる為、治療が終わったら出来るだけ早期退院が出来るよう病院の相談員と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方に関しては担当者会議などを使い、必要時は早い段階からご家族に説明を行っている。また、ご本人には会話の中から想いをくみ取る努力はしている。方針が決まった際はチームで支援に取り組んでいる。	利用者の状態変化時はその都度家族と支援方針を相談している。看取りを希望する場合は、協力医、週3回勤務している看護師、職員とでチームを組み、支援に取り組んでいる。2021年は2名の方の看取りを支援した。コロナ禍であるが、最期を家族と共に過ごせるようにも工夫した。看取りに関する外部研修にも職員が参加し、職員間で伝達講習を行い内容を共有している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員講習は受けており、マニュアルなどもあるが、実際にその時適切な対応が出来るか、不安な職員が多い。	職員全員が消防署主催の普通救命講習を受講している。今年内部研修はDVDを利用して実施した。マニュアルは各ユニットにファイルを備え、緊急時等のフローチャートも掲示している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は定期的に行っているが、水害や大地震などの訓練は行っておらず。想定外の災害時、安全に避難させる事が出来るか不安がある。現在はコロナ禍の為、自粛しているが、平時の時は地域の方にも避難訓練に参加してもらっており、協力体制は築けている。	火災を想定した避難訓練を定期的実施している。コロナ禍のため、地域の方の訓練参加は自粛している。近隣の施設とは災害時の協力・連携について協定を締結している。備蓄品はリストアップして、防災管理者が管理している。	事業所は平屋でもあり、今後、火災だけでなく水害、地震等への訓練も検討している。今後のさらなる取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほぼ全スタッフが心掛けてはいるが、実際利用者様の近くにて情報交換したりする事もあり、完璧ではないと感じる。また、自分にはしているつもりでも、相手はそう感じていない可能性もある。	排泄や入浴などの支援場面では、必要な方に対して同性介助の配慮をしている。居室はノックしてから入る、名字での声かけを統一するなど、基本的事項を職員間で徹底している。また、チェックシートでの振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表現する事自体が困難になってきている入居者様も多くなっている。日常の中では「コーヒーORお茶」「起きるOR起きない」等位しか選択する場面はないと感じる。思いや希望を表せるまでいっていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースにて過ごせる方は過ごしてもらっている。また、朝の掃除の時間帯など忙しい時間帯は特に業務優先になっている事が多い。その日どのように過ごしたいか聞く事は殆どない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	最低限の身だしなみには気を付けているが、お洒落が出来るまでの支援は出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の介護度が高くなったり、男性の利用者様が増えたりした事で片付けや準備は職員がしている。また、利用者様自身も多様化してきており、そのような事を望まない方も増えてきている。	献立や食材は業者から届けられており、事業所で1～2品を調理している。可能な利用者にはテーブルを拭いたり、野菜を刻むなどを一緒に行なってもらっている。利用者の状態に応じてとろみ食、刻み食を提供したり、嫌いなものは代替食も準備している。誕生会にはケーキを手作りしたり、行事の際は外から出前を取るなどして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いる等し状況把握に努めている。嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。必要時には医師、看護師にもアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の生活習慣などに合わせた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援は行っていないが、定期的なトイレ誘導の声掛けや、排泄パターンを把握し、パット交換の時間帯やパットの種類等を検討している。	できる限りトイレでの排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄がなかなかできなかった方にも丁寧な声かけすることで失禁が少なくなりトイレ利用ができるようになったり、排泄状況がつかめなかったが定期的な声かけで排泄リズムを把握し、適切なパット使用が検討できるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり、ヨーグルトなどの飲食物で工夫した事もあったが、改善は難しく、また、年齢的にも運動不足や腹圧がかけられない等の身体的要因もあり、現在は下剤での調節のみである。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日やお風呂の温度の希望がある方に関しては希望に沿って対応している。希望がない方や意思表示が出来ない方は、こちらで最終入浴日や体調を確認し声掛けを行っている。また、入浴を好まない方もおり、個々に合わせた支援を行っている。	週2～3回を目途に入浴できるように支援しており、時間も利用者の希望により対応している。入浴を好まない利用者には、時間を変えたり言葉かけを工夫して入浴につなげている。また、バスクリンやゆず湯などの変わり湯で楽しんでもらうこともあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息をすすめたり、安眠できるよう週一回のリネン交換や居室の明かりや空調管理など行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や用法など、ある程度把握しているが全ての把握は出来ていない。しかし必要時には都度調べるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族希望にてノンアルコールビールや個人お菓子など提供している方もいるが、張り合いや喜びのある日々を過ごせる程の支援は出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は控えており、ホーム周辺への散歩やドライブのみである。	コロナ禍で外出は控えているが、そのような状況の中でも、天気の良い日はレクリエーションの一環として神社や海、隣市の「瓢湖」などへ少人数でのドライブに出かけるなどしている。また、自宅が見たいという利用者には一緒に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は大切な事と理解しているが、認知症の為金銭トラブルの事例もあり、金銭を持つ事で逆に生活の質が低下してしまう事も多く基本的に金銭の持ち込みは遠慮してもらっている。但し持ち込みを希望される方に関してはその都度検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現実的にはご家族の協力が不可欠だが、電話の希望があれば使用出来る環境にはある。コロナ禍にて面会制限がある為ご家族からの電話や手紙が定期的に届く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を大事にしながら、季節が感じられる写真や絵、飾りなど掲示している。その反面フロアの広さの割には居場所が少なかったり、冬場の乾燥や生活音(テレビ音、食器洗い音等)掃除後のトイレの戸の閉め忘れによる寒さ等改善しなくてはいけない所もある。	エントランスには花や絵を飾り、テーブルや椅子などもゆったりと配置している。ユニットのフロアには、手作りの鳥居や神輿を飾ったり、広報委員会により行事の写真や壁に飾るなど、季節感などを感じられる飾りつけをしている。掃除は毎日行い、加湿や換気などにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた家具(予算)ので、食席や空間作りを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族、ご本人には使い慣れた物の使用をすすめるが、実際は新しい家具を持参される方の方が多い。居室の空間に関してはご自宅のレイアウトを参考にしたり、ご本人の状況をアセスメントし配置を決めている。	居室の家具や備品はすべて持ち込みをしてもらっている。ベッドや衣装ケース、テレビ、イスやカーペットなど、利用者が思い思いに持参して居室をしつらえている。現在はコロナ禍で家族に居室への出入りを控えてもらっており、衣類等の入れ替えは家族に代わり職員が利用者と相談しながら行っている。掃除は毎日行い、温度・湿度管理、換気にも留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を使用する等安全には配慮している。しかし、全体に建物の作りがウッドベースで統一されており優しい雰囲気ではあるが、認知症の方には分かりづらい時もある。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				